

体育・新体操スクール活動展開についての具体策

1、環境

- A：幼児を除く子供の受け渡しは入口外で行ない、送迎の保護者の見学は無しとする。
- B：子供の手等をアルコール消毒、活動前に器具・手具、子供の動線なども消毒をする。
- C：子供は送迎時マスク着用だが、暑熱下、高湿度下では息が苦しい、熱中症も危惧、運動中に外れるなどが予想されるので、外して実施の方がよいと考える。講師も状況に応じてマスクの着脱を判断する。
- D：各クラス入れ替え時間を作り、子供の交錯を減らす。
- E：整列隊形なども、各列に余裕の距離が取れるような隊形を工夫する。
- F：基本的に窓は全開で換気をしながら授業を行なう。
- G：水分補給をこまめにする。必要があれば適宜うがいもする。
- H：1クラスが30人を超え、距離を取りづらいような場合はクラスを分割する。
しかし、30人前後であっても、ダブルティーチングで場所を分けて指導できるような場合は、1クラスを同時に行うこともできる。

2、内容

- A：1人で行える運動（具体的には徒手・ボール・短縄・手具操作など）を多く取り入れる。
- B：連続の運動は多回数ではなく、2回程度に少なくし息が上がるほどの本数を避ける。また大型鉄棒は2人まで、マット等の他の器具は1人ずつ使用する
- C：順番待ちの時は離れるよう伝え、極力子どもが分散できるよう配慮する。
- D：2人組運動は極力少なくし、実行時間を短くして行う。
- E：長い説明は避け、挨拶なども簡潔文にする。
- F：密集・密接にならないようグループに分け、個人間の距離を極力広げる。